

高大接続の方向性と 共通テストのゆくえ

林 篤裕

(名古屋工業大学 社会工学専攻
& アドミッションオフィス)
e-mail: hayashi.atsuhiko@nitech.ac.jp



資料掲載URL: stat.web.nitech.ac.jp/haifu/#SGU2002

もくじ

1. 大学入試の変遷
2. グローバル社会に向けて
3. 多面的・総合的入試への道
4. アドミッション・オフィス入試
5. アドミッション・オフィスの役割
6. 新テストのゆくえ
7. まとめに代えて

1. 大学入試の変遷

入試の種類(区分)

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1346785.htm
入学者選抜実施要項

Ⅰ 一般選抜 (←一般入試)

国立大学の場合

- Ⅰ Ⅰ 一期校・二期校 (1949年(S24)-1978年(S53))
- Ⅰ Ⅱ 共通第1次学力試験+個別学力試験 (1979年(S54)-1989年(H1))
- Ⅰ Ⅲ 大学入試センター試験+個別学力試験 (1990年(H2)-2020年(R2))
- Ⅰ Ⅳ 大学入学共通テスト+個別学力試験(2021年(R3)-)

Ⅱ 多様な入試方法 (かつては「特別入試」)

- Ⅱ Ⅰ 総合型選抜 (≒AO入試)
- Ⅱ Ⅱ 専門学科・総合学科卒業生入
- Ⅱ Ⅲ 学校推薦型選抜 (≒推薦入試) 帰国子女入試・社会人入試

大学入試の外形的定義

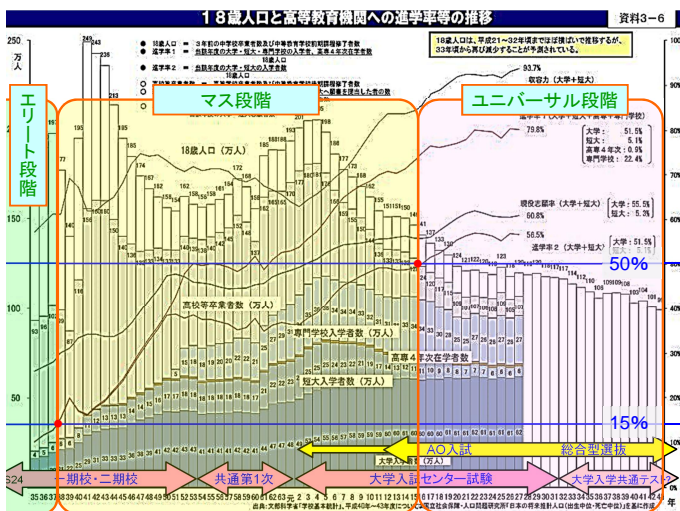
	一般選抜	学校推薦型選抜	総合型選抜
受験資格	高校卒業	ほとんど現役のみ	現役とは限らない
推薦	不要	学校長による1人1推薦	受験生の自己出願
定員比	前期/後期	5割まで	推薦と併せて5割未満
入学義務	制約なし	あり	課す場合は大学の責任で
実施時期	2、3月	11月以降に募集・実施	特に規定なし
指定校等	なし	大学によって異なる	大学によって異なる
センター試験	課す	課す/課さない	課す/課さない
選抜方法	学力検査	小論文、面接など	他に、面談、講義等、多様

国大協が取りまとめ、入試センターを介して実施

国大協と高等学校校長会との取り決めによる

特に制限がない選抜で、全ては実施大学の責任で

2010年からガイドライン8月以降に募集



共通第1次学力試験・ 大学入試センター試験の実績(1)

- Ⅰ 11回+31回の実績
- Ⅰ アラカルト方式への変更等は有ったものの
- Ⅰ 『高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とする』
- Ⅰ 単なる知識を問う設問ばかりではない
- Ⅰ 高等学校教員からの評価が低いとは思わない。大学教員からも。
- Ⅰ いつまで経っても「〇×式試験」と思われているフシがある
- Ⅰ 現状の試験で何が問題なのか？
- Ⅰ 1点刻みはダメ？ 1回勝負はダメ？
- Ⅰ 思考は問えていない？ 知識を問うことは不要？

共通第1次学力試験・ 大学入試センター試験の実績(2)

- u 大学入試、特に共通試験
 - u 学習指導要領に基づく評価
 - u 学習努力を評価する試験
 - u 何をすれば
高評価が得られるかが判っている試験=目標
- u 高校現場には明確なメッセージとなっている
- 別の観点から(国公立大学の場合)
 - u 分離・分割方式(前期・後期日程)の定員確保措置
 - u 大学入試センターの役割: 合格者の把握・周知
 - u 前期日程の入学手続き者の把握・周知

7

共通学力試験と 個別学力試験の役割分担

- u 『入試』: 入学後の修学に耐えうるかの確認
求める学力を有しているかの確認
- u 学習の基礎的な部分(全体的な把握)と、
応用的な部分(部分的な把握)の評価を
分担して棲み分け
- u 二つを合わせることによって機能(国公立大学)
- u 基礎学力の確認のための共通学力試験に
過度な負担(期待?)を盛り込むべきではない
- u 方式もシンプルに: トラブル、影響、目標、.....
 - u 56万人の志願者と800近い大学の「接続面」として

8

外部試験導入時の考慮点

- u 民間の検定試験の活用: 英語の4技能評価
- u 共通第1次学力試験の導入の功罪
 - u 基礎的な学習の達成の程度を測定すること
 - u 難問・奇問の排除
 - u 良問の出題
 - u 共通の尺度≒輪切り現象、序列化
 - u 実施規模の拡大
 - l 厳密性が求められ過ぎているくらい
 - l マニュアルが厚くなる一方
 - u 作題者の育成: 作題経験のない大学教員、技術伝承、
誰が育てる? ==> 深刻な問題
 - l 教養部解体も時を同じくして進行してしまった

9

状況1

2. グローバル化社会に向けて

- u グローバル化社会
 - u 人、モノ、環境(教育を含む)が一体となって
世界を巡る流動・競争社会
 - u 世界的な教育の質保証:
 - l ボローニャ・プロセス(ヨーロッパ)
 - l インターナショナル・バカロレア(IB)
 - l アクレディテーション(Accreditation, 適格認定)
- u 知識社会から論理思考社会へ
 - u 外から知識を獲得できていた時代から
新しいことを生み出す必要のある時代へ
 - u 単なる「知識再生だけ」では対応できない社会
- u このような時代を生き抜く人材の育成
==> 皆さんならどのような施策を打つべきと? 10

超ユニバーサルな高校教育・ ユニバーサルな高等教育の質保証

状況2

- u 米国の社会学者マーチン・トロウ (Martin Trow) の定義:
 - 進学率
 - ・15%まで: エリート段階
 - ・15%-50%: マス段階
 - ・50%以上: ユニバーサル段階
 - o 誰にでも進学する「機会」が保証されている状態
- u 高校への進学率=98.9%: 事実上の義務教育化
 - u 普通科、専門学科(職業科)、総合学科
 - u 「多様化」の名の下にあらゆる層が入学してくる時代
==> 卒業させる必要性、高校教育に歪み、質保証
- u 大学+短大への進学率=58.1% (令和元年度 学校基本調査)
- u もう一様なルールでの議論・運用は困難では?

11

三位一体改革

国としての
対応策

- u 高等学校教育、大学教育、
そして、両者を橋渡しする大学入学者選抜制度
- u 「多面的・総合的評価」
- u 最近の流れ
 - u 2014年12月 中教審答申「新しい時代に.....」(※)
 - u 2015年 1月 高大接続改革実行プラン
 - u 2015年12月 国立大学協会「最終報告」に向けて
 - u 2016年 3月 高大接続システム改革会議「最終報告」
 - u 2017年 7月 高大接続改革の実施方針等の策定
 - l ※新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の
一体的改革について ~ すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために ~
- u 「生煮え」、現実とのズレ、理想論、.....

12

3. 多面的・総合的入試への道(1)

- u 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第二次答申)
 - 1997年6月26日(H9) / 中央教育審議会
 - http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/970606.htm

目次

第2章 大学・高等学校の入学選抜の改善

(3) 大学入学選抜の改善等の具体的な取組

(B) 入学選抜の改善を進めるための条件整備など関連する施策の推進

[1] アドミッション・オフィスの整備

- u 初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)

- 1999年12月16日(H11) / 中央教育審議会
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/991201.htm

第5章 初等中等教育と高等教育との接続を重視した入学選抜の改善

第4節 接続を重視した具体的な改善方策

(1) 入学選抜そのものの具体的な改善方策

- 各大学が多様な進学希望者の能力・適性等を適切に評価するための選抜方法の開発
- 丁寧な入学選抜を行うための体制の整備等

13

3. 多面的・総合的入試への道(2)

- u 英語教育、理数教育、ICT教育を中心とした「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言」
 - 2012年4月(H25) / 自由民主党 教育再生実行本部
- u 「平成の学制大改革」、「大学・入試の抜本改革」、「新入材確保法の制定」(第二次提言)
 - 2012年5月(H25) / 自由民主党 教育再生実行本部
 - <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikuseisei/dai45/sankou2.pdf>
- u 「これからの大学教育等の在り方について」(第三次提言)
 - 2012年5月(H25) / 首相官邸 教育再生実行会議
 - https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikuseisei/pdf/dai3_1.pdf

- グローバル化に対応した教育環境づくりを進める。
- 社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくりを進める。
- 学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する。
- 大学等における社会人の学び直し機能を強化する。
- 大学のガバナンス改革、財政基盤の確立により経営基盤を強化する。

14

3. 多面的・総合的入試への道(3)

- 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について(答申)(中教審第177号)
 - 2014年12月22日(H26) / 中央教育審議会
 - http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm

2. 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた改革の方向性

(1) 各大学のアドミッション・ポリシーに基づく、大学入学希望者の多様性を踏まえた「公正」な選抜の観点に立った大学入学選抜の確立

- 各大学の個別選抜改革
- 新テストの一体的な実施
- 改革を実現するための具体策(「高大接続改革実行プラン(仮称)」の策定)
- 評価方法の改革

※新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～

15

3. 多面的・総合的入試への道(4)

- u 高大接続改革実行プランについて
 - https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo12/sonota/_icsFiles/afildfile/2015/01/23/1354545.pdf
 - 2015年1月16日(H27) / 文部科学省

Ⅲ 具体的な取組施策

1 各大学の個別選抜の改革

- 「高等学校基礎学力テスト(仮称)」及び「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の実施

(2) 新テストの実施主体

- u 「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」の公表について

- 2015年9月14日(H27) / 国立大学協会
- <http://www.janu.jp/news/teigen/20150914-wnew-actionplan.html>

ポイント1:優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

16

3. 多面的・総合的入試への道(5)

- u 高大接続システム改革会議「最終報告」の公表について
 - 2016年3月31日(H28) / 高大接続システム改革会議
 - http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

Ⅱ 高大接続システム改革の基本的な内容

ウ 大学入学選抜改革

Ⅲ 高大接続システム改革の実現のための具体的方策

3. 大学入学選抜改革

(1) 大学入学選抜改革の基本的な考え方

(2) 個別大学における入学選抜改革

エ 個別大学における入学選抜改革を推進するための支援

- 高大接続改革の実施方針等の策定について

- 2017年7月13日(H29) / 文部科学省
- https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afildfile/2017/10/17/1396986_05.pdf

平成33年度大学入学選抜実施要項の見直しに係る予告

I. 大学入学選抜に係る新たなルールについて

17

大学入学共通テスト

- u 大学入試センター試験に代わる共通学力試験

- u 2020年度(令和2年度)から実施(2021年1月): 現高2

- u 高大接続改革の実施方針等の策定について

- https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afildfile/2017/10/17/1396986_05.pdf
- 2017年7月13日(H29)

- u 主な変更点

- u ~~国語と数学~~: 記述式問題を導入(各3問程度)

- u ~~英語4技能の評価~~: 読む(R)、聞く(L)に加えて、話す(S)、書く(W)

- u 多肢選択式で、より思考力・判断力・表現力を評価できるように、その内容や形式を見直す

- u 見送り: 年複数回実施、合教科・科目型試験、総合型試験、CBT方式の採用

見送り
←'19.12
↓'19.11
外部
試験

18

教科・科目試験とは異なる視点

- 目的: [正解が1つに定まる]従来型試験では測れない
 - 「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」を測定: 『学力の3要素』
- 適性(アドミッションポリシーとの適合)
 - 公平性を保った上で「採りたい」生徒を選考
 ==> 「多面的・総合的試験」の導入
- 教科・科目試験を含めた総合的な評価により選抜
 - 学力を担保した上で
- 評価側: 平等性・公平性・客観性、審査委員の美学・審美観、.....
- 「1点の呪縛」からの開放: 段階別評価もその一つ
- 主にAO入試で実施されてきた ==> 一般選抜でも(アドミッション・オフィス)

19

4. アドミッション・オフィス入試

- 元々はアメリカが起原
 - 大学職員(not 教員)が選考
 - 主には高校修学時の履修科目のチェック
 - 「出口管理の国」での制度 <==> 日本: 入口管理
- 1990年: 日本では慶應義塾大学が嚆矢・鎚矢
 - 日本の入試文化に対応するように**改変して**持ち込む
 - 2000年「AO入試元年」
- 2007年: 韓国も導入＝アメリカ型のAO入試
 - 入学査定官制度: 公平性の担保にも腐心しているようだ
 - 教育問題が政治的課題になり易い。私塾への風当たり

20

日本におけるAO入試の変遷

AO = Admissions Office

アメリカの大学で入試業務を担当する組織

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法 (文部科学省)

1990	慶應大学湘南藤沢キャンパス(SFC)
1997	中央教育審議会第二次答申(6月)
1999	国立3大学(東北、筑波、九州)にアドミッションセンター
2000	70余大学が実施(AO入試元年)
2018	国立 57大学 (全82大学) 70%
	公立 30大学 (全89大学) 34%
	私立 482大学 (全584大学) 83%
	合計 569大学 (全755大学) 75%
	43大学 (全82大学)
	20大学 (全74大学)
	457大学 (全566大学)
	520大学 (全722大学)
	[2009年]

21

AO入試の長所と短所

- 長所
 - ミスマッチが少ない
 - 両者の理解の下、入学してくる
 - 大学の理解、満足度
 - 「カナリア効果」: 他の学生への波及効果
 - 学力に明確な差はない: 前期、後期、AO
 - 渡辺・福島(2008)、「公表データからみるAO入学者の評価」、大学入試研究ジャーナル、No.18。
 - 学部教員に高校生を見せる
- 短所
 - 手間がかかる: [魅力的な学生が確保できる]
 - 高校側からは対策が立て難い: [そうあるべき!]

22

AO入試の + と -

受験生・高校

大学

+	(長所)	+	(長所)
学力以外の資質も見てもらえる	大学で必要な資質を見る	丁寧な選抜できる	意欲・関心の高い学生を早く得られる
大学・学部をよく知って入学できる	直接受験生と接することができる		
大学生活を模擬体験できる			
大学・学部への適合率が高い			
-	(短所)	-	(短所)
どう指導して良いか難しい	手間暇がかかる	基礎学力を測るのが難しい	他人の知恵が入っているかも
評価・判定の基準が判り難い			
落ちた場合を考えるとリスクである	対策への対策の工夫をどうするか		

23

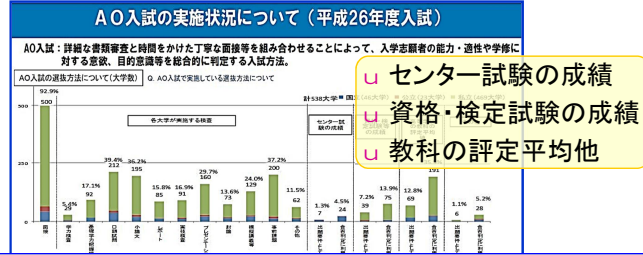
AO入試のいろいろな選抜方法(1)

- 具体的な評価方法としては、例えば、次のようなものが考えられる。(本文 P42)
 - 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の結果
 - 自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法
 - 調査書
 - 活動報告書
 - 各種大会や顕彰等の記録、資格・検定試験の結果
 - 推薦書等
 - エッセイ
 - 大学入学希望理由書、学修計画書
 - 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション
 - その他 [例えば、総合的な学習の時間などにおける生徒の探究的な学習の成果等に関する資料や面談などが考えられる。]

高大接続システム改革会議「最終報告」の公表について(平成28年3月31日)

AO入試のいろいろな選抜方法(2)

- ☐ 面接
- ☐ 学力検査
- ☐ 基礎学力把握検査
- ☐ 口頭試問
- ☐ 小論文
- ☐ レポート
- ☐ 実技検査
- ☐ プレゼンテーション
- ☐ 討論
- ☐ 模擬講義等
- ☐ 事前課題
- ☐ 書類審査

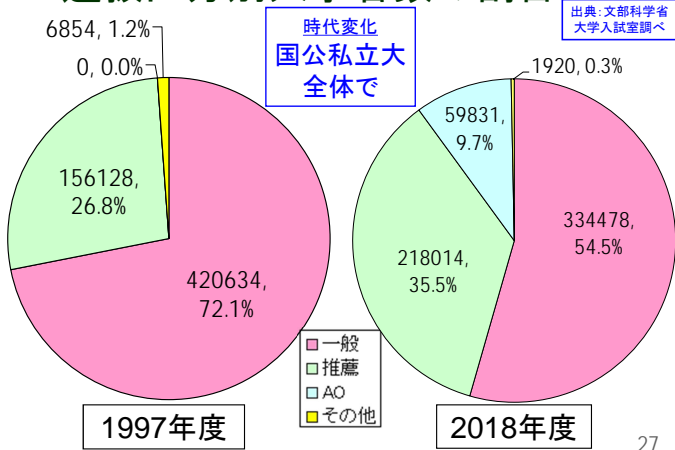


高大接続システム改革会議「最終報告」の公表について(平成28年3月31日)

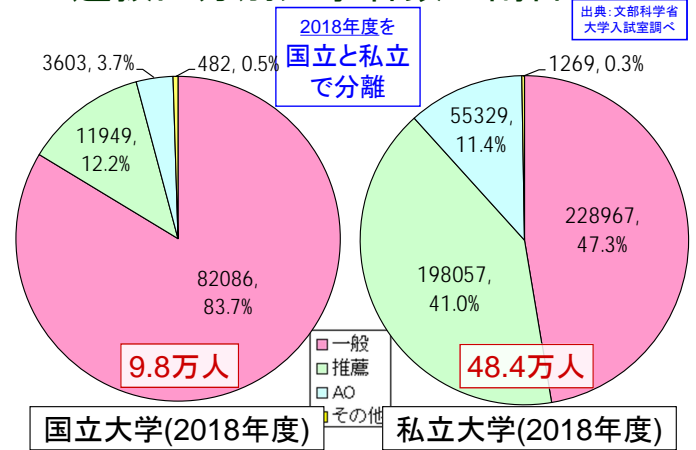
AO入試: 国立大と私立大

- ☐ 設置者に因って明らかに異なる
- ☐ 割合 ==> 次ページ
- ☐ 試験方法
- ☐ 導入目的も?
- ☐ 国立大: 「学力不問」ではない
 学力も重要な「評価対象」の一つ

選抜区分別入学者数の割合



選抜区分別入学者数の割合



日本のAO入試

- ☐ 国公立大学と私立大学とで全く異なると考えてよい
- ☐ アメリカのAO入試とも異なる
 - ☐ 主に事務員(Officer、not 教員)が関与
 - ☐ この中にもいくつかのタイプがあるのかもしれないが
- ☐ AO入試: 同じ名称だが、3つとも違ったものである
 - ☐ 「日本の国公立大学」のAO入試
 - ☐ 「日本の私立大学」のAO入試
 - ☐ 「アメリカ」のAO入試
- ☐ それぞれは区別して議論すべき: 国公立、私立、米、韓
 - ☐ 区別しないと非生産的な議論にしかならない
 - ☐ 「学科試験を課していないから……」はダメ
 - ☐ 「AO入学の学生は……」はダメ

5. アドミッション・オフィスの役割 歴史

- ☐ 1999年(H11) 国立3大学にAO開設:
 東北、筑波、九州。翌年には北海道にも
- ☐ 2000年(H12) AO入試元年: 全国70余大学
- ☐ 当初: AO入試の管理・運営部署として
- ☐ 時代と共に:
 - ☐ 高等教育改革、IR、中教審答申等々……
- ☐ 現在は多様な用務を担っている: 後述
 ==> AOの役割は? 将来像は?

現状

- 国立大学アドミッションセンター連絡会議: 25大学
 - 北海道大、旭川医科大、岩手大、東北大、山形大、茨城大、筑波大、横浜国立大、電気通信大、福井大、富山大、静岡大、京都工芸繊維大、鳥取大、岡山大、広島大、山口大、香川大、愛媛大、高知大、九州大、佐賀大、長崎大、鹿児島大、琉球大
- 未加入も散見される。[全国的な新しい取り組みもあるのだとか]
- 四国地区国立大学連合アドミッションセンター(5大学)
- 17年度、18年度: 開設が盛ん。教員募集も頻繁。
 - 「共通政策課題(入学者選抜改革分)」
 - 東大、京大、名大、名工大、九大、福島大、... 20以上
- 多面的・総合的評価を目的として <=== 中教審答申
- いろいろな形態・運営方法:
 - 教員主体、事務系主体、協働型、時限制(任期制)、.....
 - しかし、人材が不足しているのではないかと
 - 「入試」という特殊性・秘匿性、ミスが許されない、..... 31

AOの担っている用務(1)

- 対学外: 高校生、高校教諭、保護者、PTA対象
 - オープンキャンパス(OC)
 - 広報活動
 - 進学説明会: 大学間連携での実施、受験産業主導
 - 高校での講演、説明
 - 来学者への講演、説明
- 講演の内容: 多岐にわたる
 - 大学、学生生活、研究、就職状況、入試動向、.....
- 訪問目的を明確に: 総合的学習の時間を有効に
 - 焦点を絞る、ストーリー、プレゼンテーション方法、DVDの放映だけで良いのか?
- (受験生の困り込みではなく、高等教育の面白さを。) 32

AOの担っている用務(2)

- 対学内
 - AO入試の管理・運営、支援
 - 入試全般の助言、支援
 - 入試分析: 選抜状況の把握
 - 入学者選抜研究委員会(入選研)(国立大では)
 - 本来は1979年(S54)から継続されているはずなのだが
 - 追跡調査や学修動向の把握: IRにも通じる
 - 将来の入試改革に備える: 未来への備え
 - 入学者選抜改革の実現に向けた取組の支援
 - 入試研究

33

入試研究の一例

- 作題者に対して統計情報を提供(評価資料)
 - 平均、標準偏差
 - 設問解答率分析図
 - 得点分布
 - 試験問題DB、教科書DB
 - 連関表
- 入試の振る舞いの把握
 - 合否入替り率
 - 入試問題の改善、...
 - 追跡調査
- その他
 - 得点調整
 - 調査研究: 総合試験、高大連携、試験情報の整備、...
 - 分位点差縮小法
 - 等化
 - 調査・アンケート等
 - 研究開発: 評価方法、...

34

AOスタッフの研究領域

- 研究領域
 - 教育学、高等教育論、教育行政
 - 統計学: 統計処理
 - 参考書、処理経験が活きてくる、統計検定もあるよ!
 - その他、多岐にわたる
- 活動の場
 - 学内: 入学者選抜研究委員会(入選研)(国立大)
 - 学外: 全国大学入学者研究協議会(入研協、2006年(H18)-)。
 - 元は国立大学入学者研究協議会(1979年(S54)-2005年(H17))。
 - 日本テスト学会(2003年(H15)-): 大会/年

35

<<参考資料に詳細へのリンクあり>>

Admission Officerに求められるスキル

- ◆「大学」の熟知
 - 自大学のみならず他大学も
- ◆高等教育の在り方
 - 在るべき姿が語れるか
- 入試業務・仕組みの把握
- 入試動向・教育行政の把握
- (初等&)中等教育の把握
- 情報処理・統計処理技術
 - データハンドリング、データ解析、報告
- プレゼンテーション能力?
- 入試課との連携
- IR部門との連携
- 学内での発言力
- グループワーク
- 【私見】
 - 高大接続を担っているという気概
 - 高校と大学の関係性(単なる高校教員の支援ではなく)

36

高校教員との交流・勉強会

- u 教育委員会によっては
進路指導教員を中心とした研究会あり
- u 「高校が元気にならないと大学は元気になれない」
- u 日本中等教育ネットワーク
 - u 鳥取、岡山、徳島の3名の高校教諭から(07年から)
 - u 県を越えての高校教諭の集まり: 133名(2019.10現在)
┆新潟(1)大阪(1)鳥取(16)鳥根(15)岡山(16)広島(17)山口(12)徳島(15)香川(12)愛媛(7)高知(15)長崎(3)鹿児島(3)
 - u 年に1回の勉強会。熱心な議論、意見交換。
 - u 進路指導関係が多いが、それに限定されない。
- u 研修コース: 大阪大、九州大、名古屋大、
大学入試センター等

37

6. 新テストのゆくえ(1)

- u 令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題方法等の変更について <=== 2021年1月実施
 - u <https://www.dnc.ac.jp/news/20200129-01.html>
 - u 2020年1月29日
 - u 令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針(令和2年1月29日一部変更)
- u 「大学入学共通テスト」開発の実務担当者インタビュー
 - u https://publications.asahi.com/ecs/detail/?item_id=21741
 - u AERA 2020年2月24日号
- u 大学入試のあり方に関する検討会議
 - u https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/103/index.htm
 - u 1月15日(第1回)、...、2月28日(第4回) / 文部科学省
 - u 意思決定機関ではない。誰が決定する? どこで? 何時?

38

6. 新テストのゆくえ(2)

- u 既に4年近く議論してきたが: 一部議事録公開済み
- u 大学入試センター試験と同様の試験となるのか?
 - u 共通試験としての目標・必要要件、基本構想
 - u マークシートによる、より思考力を測る設問への改良
 - u 記述式? 英語4技能の測定? 年複数回実施? CBT導入?
- u 対受験生: 勉強の本質は不変・普遍。心配するな。外乱に惑わされずに、これまで同様熱心に勉強しておこう。
- u 次のタイミング: 2024年度(令和6年度)があるのでは?
 - u 新課程対応に向けての議論
- u 【私見】
 - u 構造はシンプルに。共通試験に過度な期待は禁物。
 - u 1次試験(共通試験)と2次試験(個別試験)のセットでの利用
 - u 高校生に影響を与えない「静かな議論」、周知期間

39

7. まとめに代えて(1)

- u 多面的・総合的入試 <=== グローバル化、少子化等に向けて
 - u 多様な学生の受け入れ <=== 時代の趨勢
 - u 『学力の3要素』を測る: 「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」
- u 選抜方法・評価手法
 - u これまでの方法の組み合わせ? 改良? 新手法開発?
- u 大学入試のこれから
 - u 道具立てだけでなく、考え方についても
 - ┆ 選抜方法[道具立て]の整備・充実は勿論だが、高等教育として「望ましい入学者像」、「修学環境」を不断に思考・模索すること[考え方、哲学]が重要ではないか
 - u 共通試験: 過度な期待は禁物
 - ┆ 目標が明確で、努力が評価される試験とすべきでは? 40

7. まとめに代えて(2)

- u Admission Officerの出番
 - u 選抜方法の確立、体制の整備、社会的認知、環境整備、...
 - u マルチなスキル。教職員の人材育成が急務。
- u 大学入試は文化や教育制度に根ざして
開発・運用されるべき: グローバル化とは対極
 - u 他国の良例がそのまま流用できるわけではない
 - u 日本に最適な方法を編み出す必要。知恵を出すとき。
┆ 学習指導要領が策定されている国の利点を活かして
- u 夢(?): 入り口管理の国から出口管理の国へ
 - u 定員管理の弾力化、大学中退の許容、生涯教育(途中再投入)の普及、大学教員の気概等
- u より良い「高等教育」、「高大接続」を目指して!!

41

参考資料

- u 荒井 克弘(2019), 「高大接続システムの構築と大学入試センターの役割」, 大学評価研究, 第18号, PP9-18.
- u 大塚 雄作(2020), 「共通試験の課題と今後への期待— 英語民間試験導入施策の頓挫を中心に—」, 名古屋高等教育研究 第20号(投稿中).
- u 名古屋高等教育研究 第18号(2018)
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/journal/eighteenth.html>
- u 林 篤裕(2018), 「アドミッション・オフィスの機能と役割— 多面的・総合的評価を実現するために—」, 名古屋高等教育研究 第18号, PP39-53.
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/journal/no18/03.pdf>
- u <http://stat.web.nitech.ac.jp/haifu/#NKKK18>
- u 木村 拓也, 田尾周一郎, 林 篤裕, 副島 雄児(2018), 「総合的且つ多面的な評価に基づく入学者選抜とその学修成果の可視化— 九州大学21世紀プログラムの事例—」, 名古屋高等教育研究 第18号, PP177-198.
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/journal/no18/10.pdf>
<http://stat.web.nitech.ac.jp/haifu/#NKKK18-21cp>

42